

「災害時等における放送に 関する協定」締結

町は、MSI(株)と昨年12月19日(火)、「災害時等における放送に関する協定」の調印式を実施し、協定を締結しました。

同協定は、昨年12月20日(水)に開局し、黒潮町と四万十市の一部エリアで放送されているラジオ「FMはたらんど」内での防災情報の発信や、災害が発生した場合の情報発信を行うもの。

松本敏郎町長は、「防災の備えや災害時の情報伝達には多様な方法が必要。今回の協定締結を非常に心強く感じている」と話しました。

また、同社の久野秀明代表取締役社長は、「もし災害が発生した時には、情報を町の皆さんにいち早くお届けできるようにしたい。普段の放送のなかでも、地域密着



久野社長(左)と松本町長(右)のラジオ放送を心がけ、安心・安全をお届けできるように努めていく」と話しました。

「包括連携協定」および「災害 時における応急仮設住宅の 建設に関する協定」締結

町は、(一社)日本ムービングハウス協会と昨年12月21日(木)、「包括連携協定」および「災害時における応急仮設住宅の建設に関する協定」の調印式を実施し、協定を締結しました。

同協定は、移動型の仮設住宅「ムービングハウス」を、災害発生時に速やかに建設し、被災者の生命・健康の被害を軽減するためのもの。

松本敏郎町長は、「仮設住宅は防災対策の課題の1つであり、今回の協定がこの課題解決に向けたものとなることを期待している」と話しました。

また、同団体の佐々木信博理事長は、「移動し、形を変えて再利用



佐々木理事長(左)と松本町長(右)の協定を活用できるムービングハウスの長所を活かし、災害発生時にはいち早く援助、設置していき「話したい」と話しました。

まほろば Vol.26 くるしお

「まほろば」とは、素晴らしい場所・住みやすい場所という意味。まほろばな黒潮町で頑張る人や団体にスポットを当て、紹介するコーナーです(隔月掲載予定)。



黒潮町ケーブルテレビ まつし 松下 千登世さん

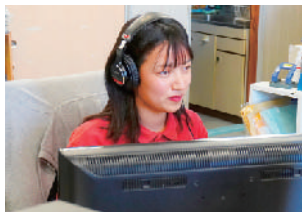
平成23年8月1日にチャンネル放送を開始し、今年で13年目になる黒潮町ケーブルテレビ(通称「IWKT V」)。地域の行事、子どもたちの活動、行政のお知らせなど、黒潮町に関することを幅広く放送しています。現在、5名(1名育休中)で活動しているIWKT V。昨年4月に入局した松下さんにお話を聞きました。

「IWKT V」に入局した 経緯は?

元々テレビの仕事に興味があって、高校卒業後は、愛媛県にある映像関係のことを学べる専門学校に入学しました。就職活動をしていくなかで、地元に戻りたいという思いがありました。テレビ局もあり、大方中学校の時に職場体験で「IWKT V」に行つて番組を作ってお手伝いをさせてもらつて、楽しかった思い出もあつたので、入局を決めました。

松下さんが担当する 番組と制作時のこだわりは?

私は現在、「1WKN EWS」と、1月から開始の新番組「こっち行ってみよう」を担当しています。「1WKN EWS」では、10分以内の短い映像を何本か作成して流しています。ニュースっぽい番組作りにはこだわっていて、普段の生活のなかでも撮影時のアングルやテロップの入れ方など、ニュース番組を見て勉強しています。



番組の編集作業を行う松下さん

「こっち行ってみよう」は、町内の各地区を区長さんと散策するというコーナー番組です。地域の人が知らない面白い場所があるので、ぜひ、それを伝える番組を作りたいと思います。初めて自分で企画

し、作製しました。あらかじめ番組内で使う色やフォントを決めておいて、統一感のあるものにするこにこだわっています。IWKT Vでは、番組の撮影、編集、ナレーションなど、全て1人で行うので、大変な時もありますが、自分が頭で思い描いていたものが作れると嬉しく思います。

これから経験を積んで、撮影時の天気の変化などにも臨機応変に対応できるようにになりたいです。

今後の目標は?

今作っている番組だけではなく、新しいコーナーも作って、番組を見る方にさらに楽しんでいただける、興味・関心を持っていただければと思います。



撮影を行う松下さん